

審議等の概要

- (4) そういう状態は新規事業や計画策定の制約要因にならないでしょうか。
- 《回答》
資本的収支の不足額は別にその補填財源があれば予算や計画を立てる上での制約とはなりません。中期経営計画56ページに建設工事が多い時代の企業債残高が約928億円となっていますが、現在の起債残高目安を555億円としています。ストックマネジメントを効率的に実施していくことで総支出額を減少させていきたいと考えています。
- (5) 雨水の部分が増えたことにより収入金額が上昇したと説明をされましたが、基準外の繰入金はあるのでしょうか。
- 《回答》
費用全体が増えたことにより、雨水だけでなく汚水分も増えております。汚水分の一部についての基準外の一般会計繰入金としてもらっておりますが、その分も増えております。
- (6) 基準外の繰入は好ましくないものだと思いますが、それを削減する方策はどのようにお考えでしょうか。
- 《回答》
基準外の繰り入れはありますが、下水道使用料は経費回収率100%を超えており、負担区分は問題ないと捉えております。その上で基準外繰入のあり方については今後必要に応じて検討したいと考えています。
- (7) 資本的収支について、例えば国庫補助金で、令和6年度の決算見込みと令和7年度の予算額について大きな乖離が見られますが、この理由を教えてください。補助金の内示の状況にもよるのでしょうか。また、繰越は含まれているのでしょうか。
- 《回答》
補助金についてはその年の事業内容の違いや、予算と内示の差などによる乖離です。また、この表は予算額で示していますので、繰越額は入っていません。
- (8) この資料には管路の緊急調査に関わる支出部分が反映されていないのではないかと思います。見込額などでもわかれば概要等を教えてください。
- 《回答》
国から要請がありました緊急調査について、国費として1,700万円ほど国費を支給していただいています。その裏財源として起債が適用できるので、3,400万円が執行できると考えています。現在発注に向けて準備していますが、総価として7,000万円前後程度になる見込です。留保資金は多少使いますが、基本的には現年度予算措置の枠組みの中で対応を行いたいと考えています。
- <資料2>
- (9) 事業量は計画と変わらず行う予定かと思いますが、例えば人件費などのコストアップ要因なども反映されている理解でよろしいでしょうか。
- 《回答》
お見込みのとおりです。
- (10) 八潮市の事故を受けた緊急調査は説明にありました調査と手法などが異なると思いますが、その延長は内数字になるのか、外数字になるのかどちらでしょうか。
- 《回答》
緊急調査は従来の評価手法より厳しいやり方で調査を行います。そのため、外数字とお考え下さい。
- (11) 前の質問の回答からすると、項目を追加するということでしょうか。
- 《回答》
現在、事業のボリュームが定まっておらず、全体の中でどのように表現するかは決めかねております。今後検討してまいります。
- (12) 補足説明の中で、説明のしようがないものに関しては、あえて何も書く必要がないものもあるのではないかと思います。
- 《回答》
参考にさせていただき、検討してまいります。

審議等の概要	<p>(13) 補足説明にあるように内容がわからず、一部評価できない項目もあります。このような内容の進捗管理についてどのように進められるかを伺いたいです。</p> <p>《回答》</p> <p>前回の審議会では、定性的な内容については個別に抜き出し、各担当から報告する形をとらせていただきました。ご指摘のようにこの資料だけからどうしたら読み取れるのか考えてまいりたいと思います。</p>
その他	<p>(1) 埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けた藤沢市の対応について</p> <p>(2) 令和7年度下水道PR事業について【施策15関連】</p> <p>(3) P-FAS測定結果について【施策8関連】</p>